

ちょうどいい 田舎暮らし 始めませんか？

先輩移住者紹介の第2弾となる今回も、御船町での暮らしや子育て、お仕事について3名の方に取材しました。移住を検討されている方必見です！移住に関して不安やご質問があれば気軽にご相談ください。

移住コーディネーター
秋吉 朱夏

都会すぎず田舎すぎない便利なところ

どこに出るにも真ん中で、インターチェンジを降りて5分で家に帰ることができる御船は、現場仕事でいろんなところに行かなければならない主人にとって、一番の良い場所でした。都会過ぎず田舎過ぎず、緑の多いこの雰囲気は、主人や私のふるさとに似ていて、子育てをするにはとてもいいなと思いました。

私は京都から来てるので、始めは友達がいなかったんですね。でも、子育てふれあい館ゆう・ゆうがあるおかげで、気軽に何でも喋れる友達ができ、何かあった時に心強いですね。



No.1 **本田 沙織さん**
京都出身 / 豊秋在住
夫、子ども2人の4人暮らし。5年前に京都から移住。

中山間地で移住定住の促進へ

現在は、主にお米の栽培を行っていて、他にもお米のポン菓子や米飴のアイスクリーム等の加工品をオリジナルで作っています。

いろんな縁があり、御船の中山間地に住んでいます。御船は移住者に対して受け入れる気持ちがあって、まちづくりに熱意のある人が多いので、すぐく住みやすいです。これからは、有機栽培の質を向上させたり、竹林整備、僕がモデルになって若い人達が中山間地で住める仕組みづくりに力を入れて行きたいと思っています。



No.2 **堀永 圭佑さん**
福岡出身
南田代第3区在住
妻、子ども2人の4人暮らし。
5年前に福岡から移住。

地域の温かさが理想的な移住に

パン屋は、私たち夫婦の楽しみでもあり、昔からの夢だったんです。町内で採れた季節の野菜を農家さんから仕入れ、小麦粉は県産のものを使用しています。また、吉無田水源のお水を使っていますので、他のお水で作った時とは味が全然違いますね。

近所のお年寄りの方が子どもたちを、本当のおじいちゃんおばあちゃんのように近くで見守ってくれるので、とても大きな存在です。それに近くに上野吉無田インターが開通したので、買い物に行くのが楽になり、生活はとても便利になりました。今思えばとても理想的な移住ができたと感じています。



▲夫、子ども3人の5人暮らし。17年前に福岡より移住。
No.3 **酒向 司さん**
福岡出身 / 田代在住



第4回 今さら聞けない 御船の恐竜の謎

Topix ①
御船層群は
とても珍しい地層

白亜紀中頃(約9000万年前～1億年前)、地球の気候は今よりも温暖だったと考えられています。南極圏や北極圏に氷はなく、海面の高さも今よりずいぶん高かったようです。花を咲かせる被子植物が大繁栄を始め、陸上環境が大きく変化し、それに適応するように恐竜たちも進化したようです。

飯田山を中心に分布する御船層群は、ちょうどこの頃にできた地層です。下から基底層、下部層、上部層の順に重なり、全体として2000メートルの厚さがあります(写真1)。御船町だけでなく、阿蘇郡西原村から宇城市にかけて広い範囲に分布しています。

御船町の天君ダム周辺には上部層が分布し、その中には恐竜だけでなく、当時の様々な動物たちの骨が化石となっています。(写真2)。化石が集中する砂岩層は、川底に堆積したと考えられ、当時の動物たちを知る上で重要な手がかりとなります。当時、大部分が海の底にあった日本の中では、川や湖でできた地層はとても珍しい存在なのです。

▶御船町白岩付近の御船層群上部層。赤茶色をした地層が特徴。(写真1)



▶天君ダム近くでの発掘調査の様子。(写真2)

Topix ③
恐竜以外の動物もすごい!

恐竜以外の動物の化石としては、魚類、カメ類、ワニ類、翼竜類、哺乳類など、約15種類が知られています。ガーやアミアのなかまなど、現在の御船町の川や池に棲んでいるものとは全く異なる魚がいました。また、暖かいところにしか棲めないスッポンモドキのなかまがいたこともわかっています。

池上直樹の恐竜 そうだったのか!!

▶最近、何かと話題となっている恐竜や博物館。
▶恐竜博物館の池上博士が最新の恐竜事情についてわかりやすく解説します。
▶今さら聞けない御船の恐竜のなぞを詳しく紹介。



Topix ②

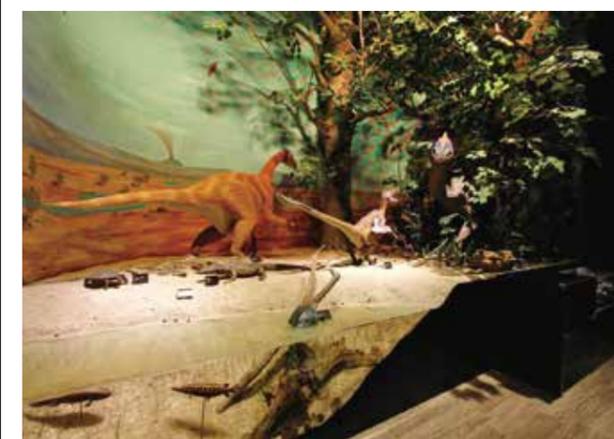
▼常設展示室で展示されている御船層群の恐竜化石(写真3)

御船層群の恐竜たち



この天君ダム周辺の発掘現場では、今のところ6種類の恐竜の化石が見つかっています。ティラノサウルス類やヴェロキラプトル類や、背中に骨でできたこぶや、とげなどが並ぶアンキロサウルス類やハドロサウルス類の植物食恐竜たちもいて、種類も豊富でした。

これらの化石は、バラバラになった状態で見つかりますが、今後も化石を探し、発掘調査を続けることができれば、きっと御船の恐竜たちの姿がはっきりとしてくるでしょう(写真3)。



▲化石や地層から復元した当時の様子(常設展示室)(写真4)

ワニ類の化石もたくさん見つかっていて、骨の形から、現代のクロコダイルやアリゲーターとおなじ正鱈類の一種。ソルレステス・ミフネンシスと命名されたネズミサイズの動物や、今の日本には棲んでいない有袋類(カンガルーやコアラなど)に近い動物の化石が見つかっています(写真4)。